大学編㊾ 最新事情

早期からのキャリア支援で学生の視野を広げたい

名古屋外国語大学キャリアサポートセンター（愛知県日進市）

名古屋外国語大学には、航空、ホテル、旅行といった業界への就職を目指す学生が数多く在籍している。7割近くが女性であり、どのような職場でも生かせる知識と技能を学ぶことができる秘書検定はニーズも高い。同学の秘書検定講座とキャリア支援の取り組みについて伺った。

名古屋外国語大学キャンパス

オンデマンド講座に切り替えて秘書検定の受講者が3倍に

名古屋外国語大学では、キャリアサポートセンターで各種検定試験の課外講座を開講している。中でも秘書検定は学生からのニーズも高い。例年は5月に「準1級・2級対策講座」、9月に「2級対策講座」を開講しており、年間約60人が受講するという。

しかし令和2年度の前期は新型コロナウイルス感染拡大の影響で検定試験自体も中止になり、講座も開講することができなかった。状況が整ったのは9月以降だ。

「他大学の例に漏れず、前期は本学でもオンライン授業の対応に追われることになりました。そのおかげで学生たちのオンライン環境が整い、自分で動画を見て学ぶことが習慣づいたようです。そこで、9月以降は資格支援講座もオンラインで開講することになりました」。

昨年度の取り組みについて、キャリアサポートセンターの中島研二課長はこのように振り返る。

秘書検定対策講座は、早稲田ワーキングスクールのオンデマンド講座を採用した。アップロードした動画を学生が好きなときに見て学ぶものだ。

オンラインでの開講により、思わぬ成果もあった。受講者が約3倍に増えたのである。

「以前は他の講座と時間が重なっていて受けられなかったという学生も、オンライン講座なら興味のあるものを複数受けることができます。また例年は土曜に開講する講座だったので、時間や場所を問わず学べることがよい方向に働いたようです」（中島課長）。

キャリアサポートセンターのスタッフである楠瀬愛さんは、自身も同学の卒業生。高校3年生のときに、教員に勧められて秘書検定2級を受け、合格した。

「学生から資格について相談を受けたときには、秘書検定を勧めています。私は大学入試の面接で役に立ちましたが、一定期間かけてしっかり学んでおくと、すぐには使わなくても頭の片隅に知識が残るもの。就職活動のときだけで

キャリアサポートセンター
キャリア教育・資格支援担当
の中島研二課長

キャリアサポートセンタースタッフ
の楠瀬愛さん。自身も同学の卒
業生だ

なく、インターンシップなどさまざまな場面で思い出してもらいたいです」（楠瀬さん）。

外国語学部3年生の長屋紗莉香（ながやさりか）さんは、令和2年の11月に、秘書検定2級に合格した。検定の勉強は、前述したようにオンデマンド講座を受講して行った。「空いた時間にパソコンや携帯電話で受講することができたので受講しやすかったです。また何度でも見ることができるので、分からなかったところは戻って繰り返し学習することで、より理解を深めることができました。ただ、リアルタイムで質問をすることができなかったので、分からないことが出てきたときは、余裕を持ってメールなどで質問をすることが大事だと思いました」と話す。

以前から資格試験に興味があった長屋さん。秘書検定は就職に役立てることができると聞いており、時間的にも余裕がある今のうちに受験してみようと思ったのだそうだ。

「特に難しかったのは、時候のあいさつや祝儀袋・不祝儀袋への記名の仕方、会議の時の机の配置を答える問題です。覚えなければならないことが多く、日常生活ではなかなか触れることがないので戸惑いました。でも、慶事・弔事や贈答の知識、祝儀袋・不祝儀袋の取り扱い方などは、常識的な事柄であるにもかかわらず実際に教わる機会があまりありません。秘書検定を通して学ぶことができてよかったです」（長屋さん）。

日常的に役に立っているのは、やはり言葉遣いの知識だ。メールでのやりとりやアルバイトでのお客さま対応の際に、目上の人に対する言葉遣いを意識するようになったそうだ。

「言葉遣いを少し意識するだけで印象は大きく変わることを知りました。今後の良好な人間関係づくりにおいても、この知識は生かすことができると思います」（長屋さん）。

さまざまな業界に目を向け、可能性を広げてもらいたい

同学に入学してくる学生の多くは、「留学したい」「語学力を生かした仕事をしたい」という希望を持っている。

「卒業後の進路としても、航空会社や観光ホテル業などへの関心が高いです。本学では、もちろんそれらの分野も就職先として視野に入れていますが、実は、語学力はメーカーや商社でも存分に発揮することができるのです。ただ、学生にはなじみの薄い分野であるためか、そのことをあまり知りません。キャリアサポートセンターとしては、早期からのキャリア支援で、語学力を生かせる職場、職種がさまざまあることについて目を向けてもらえるよう心掛けています」（中島課長）。

そのため、低学年のうちからキャリア教育に

秘書検定準1級の筆記試験に合格した学生には面接試験対策も実施。上位級に挑戦する学生も年々増えてきているという。
［上］状況対応
［下］お辞儀の練習

は力を入れている。ガイダンスは1年次から始まり、3年生の10月以降は毎月、業界研究や卒業生との交流などを行う。1・2年生でも、希望すれば3年生向けのガイダンスに参加できる。

3年生に対しては夏と冬の2回、1泊2日の「就活セミナー合宿」を開催している。参加者は毎年120~130名。教職員だけでなく企業の協力を得て行う面接練習やさまざまな業界に勤める卒業生との交流など盛りだくさんのプログラムだ。令和2年度はオンラインでのセミナー実施となった。これも、オンラインで講座を受講する環境が整ったからこそできるようになったことだ。

「学生の中には、目標がしっかり定まっているあまりに、早いうちから就職活動でアピールするために何らかの活動をしなければと悩んでいる者もいます。そういう学生には、就職するための学生生活ではない、学生生活を充実させることがよい就職につながるのだということを、面談などの機会に伝えるようにしています」と中島課長。そのことを理解してもらうために、さまざまな体験をした卒業生のコメントを集めた冊子を作って配布している。

身に付けた知識と技能をさまざまな職種で生かすことができる秘書検定をはじめ、キャリアサポートセンターが取得を支援する各種の資格も、視野を広げ、社会人としての意識を養うために一役買っているはずだ。

きめ細やかなサポートでコロナ禍の就活を支援

新型コロナウイルス感染防止のため、昨年度から学生はさまざまな形で我慢を強いられてきた。キャリアサポートセンターでは、どのようにサポートしてきたのだろうか。

「特に通学できない間は、就職活動についても友達がどこまで進んでいるのか分からず不安に思っている学生は多かったです。例年、3年生の希望者に職員面談をしていますが、昨年度は全員に連絡を取って、オンラインで面談をしました。いつもなら授業や就活の合間に立ち寄って相談してくれるのですが、こちらから電話して状況を確認するようにしています」（楠瀬さん）。

キャリアサポートセンターの職員には企業で働いた経験のある人や卒業生も多い。楠瀬さんのように、学生にとっては〝少し先輩〟に当たる職員には学生も話しやすいのだろう。「若手の職員は、学生の気持ちがよく分かっているので細やかな対応ができると思います」と中島課長はうなずく。

コロナ禍によりオンラインでのやりとりが日常化したことで、オンライン講座の可能性は広がり、留学中の学生への対応や面談も可能になった。

「本学の学生たちは皆、気持ちがしっかりしているので、どんな業界でもやっていけるはず。特別なことは何もありませんが、これからも学生一人一人と向き合い、彼らの目標を着実に支えていきたいです」（中島課長）。

3年生対象の「就活セミナー合宿」（以前の様子）。令和2年度はオンラインでのセミナー実施となった

さまざまな業界でのインターンシップも実施しており，終了後は報告会を行う。
「関心がある企業に行く学生も，何かしなければと思って行く学生もいますが，『働くために何が必要か』『今ある力をどう生かすか』といった，気付くべき点にしっかり気付いてきてくれる学生が多いです」（中島課長）